



あいちの学童保育

県連協ニュースNo. 2号
2019年7月21日発行
愛知学童保育連絡協議会
TEL:052-872-1972 FAX:052-308-3324

第2号は地域総会特集です。各地域で行われた総会に県連協役員が参加したレポートとなっています。それぞれに特色ある総会、みなさんの地域でのヒントになるかもしれません。どうぞ一読ください。



安城市連協



4月7日(日)9時～、安城市民会館において、総会が開催されました。来賓も多数参加するなか、つくしクラブとひまわりクラブの保護者と指導員を合わせ、約30名程度の参加です。

総括や決算や方針や予算などの承認事項のほか、両クラブからの近況報告や来賓からのコメントなどの意見も交換されます。

今年度は、学童保育ひろばの開催地となり、その意気込みも語られました(安城から55名の多数の参加となりました)。

安城市内には、民間運営(保護者会など)の学童保育所が4か所あります。安城市連協は、そのうちの2クラブで構成しています。なかよしクラブと池浦児童クラブが市連協に未加盟です。今後の市連協の組織拡大は、2019年度以降の大きなテーマであり、安城の学童保育の発展には欠かせない課題です。そんな展望も視野に入れ、今年度の抱負を語る頼もしい市連協会長の姿が印象的でした。

豊明市 太陽広場クラブ

4月13日(土)19時より、たいようクラブで開催された総会に県連協役員としてお邪魔しました。決算・予算などのほか、年間の行事予定やクラブでの生活の流れの説明など、和やかな雰囲気の中で、丁寧に議事が進められていました。中でも印象的だったのは手書きの資料が多かった事です。毎年、一から時間をかけて資料をつくり上げられている様子が伺えました。

たいようクラブは20人に満たない比較的小規模なクラブですが、保護者の皆さんは、ほぼ全員の方が出席されていました。議事の中で一人ずつお子さんの事も含め自己紹介をされていま

した。こうしたアットホームな関係の中で、子どもも大人もみんな仲良しになれるんだらうなあと、羨ましくも感じました。

春日井学童保育ネットワーク

4月21日、9:30～12:00 レディヤンかすがいにて役員理事を中心として15名の参加で総会が行われました。

理事の方はお父さん中心、みんなが仲良く和気あいあいとした雰囲気の中ですすめられました。お母さん方も明るく元気いっぱい。民営学童保育所と春日井市から指定管理者を受託した子どもの家と、運営主体が違って、父母会活動をどうやって活



発化させるかなどお互いに関心をもって交流する姿が印象的でした。学童保育をもっと知りたいからと、初めてネットワークの会議に参加したお父さんもいたり、活発な雰囲気を感じました。役員の任期が2年というのも安定した運営につな

がっているように感じます。

春日井市は夏休み中の預かり場所を新設、また月1000円の公民格差是正の拡充がされます。

また面積基準の猶予期間が終わると市は既存の施設で支援の単位を分ける方向です。支援の単位を分けることで受入

人数は増えることが考えられますが、子どもの生活、安全面はどうなるのか。学童保育の質とは何かを考え続けたネットワークだからこそ、保護者と指導員が力を合わせて学童保育のあり方を市に問うてほしいと思います。



大府市連協



5月12日(日)14:30～ 大府公民館にて

来賓として4名の議員を加えての総会となりました。2学童からなる大府市連協ですが、各クラブの紹介を交えて進行され、

前年度の活動報告や来年度の方

針や予算案を話し合い、無事に終了しました。各指導員によるクラブ紹介は、保育に対する取り組みや姿勢、子どもへの想いが詰まった学童保育らしさの分かる内容であり、参加された保護者には勿論ですが、議員にも良いアピールとなり、とても有意義な時間でした。保護者メンバーに入れ替わりがあり、新たな気持ちで新年度をスタートすることになります。

犬山市連協

4月20日(土)19時～犬山市福社会館にて総会が行われました。児童センター長、暮らしを守る会、保育を守る会の来賓があり、暮らしを守る会に参加している市議員も翌日を選挙投票日に控え忙しい中駆けつけてくれました。

昨年度は初めての市長との懇談会で、児童クラブの学校移転、施設設備について話し合うことができました。その成果を今年度どう活かすか、大きな課題です。



ほいく誌担当者が、「ほいく誌は指導員にとっては教科書のような存在」だと言っていました。読み続けたからこそ気づいたのです。指導員との協働も公営学童保育にとってはとても大きい課題です。ほいく誌だけでなく、みなが役割をまじめに取り組んだからこそ得たこと知ったことがあるのだと感じました。

心臓がばくばくしてる～と緊張する役員たちでしたが、きちんと議事をこなし次年度へとつなぎました。総会後の引き継ぎも丁寧に行われており、真剣なまなざしの新役員さんたちに、がんばれ！と心からのエールを送りました。

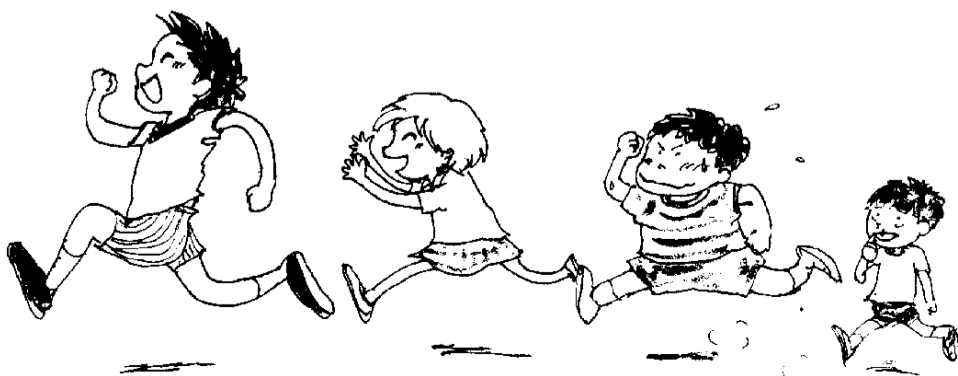
名古屋市連協

4月21日(日)、名古屋市中区・教育館にて、「第39回名古屋市学童保育連絡協議会定期総会」が開かれ、参加してきました。参加者は143名でした。

会の冒頭の池田会長の挨拶を受けて、恒例の「学童保育指導員勤続表彰」がありました。5年目から5年毎に30年目までの対象指導員は、代理者も含めて全員が壇上に上がり、参加者からの祝福を受けます。「専門職」としての確立は、長く働き続けられることが必須です。30年、40年と働き、今の学童保育をつくってきたベテラン指導員のバトンを受け継ぐ、若い指導員層を盛り立てていかなくては、と思います。

その後は、こちらも恒例の来賓挨拶～名古屋市議会の各会派代表者、保育・子育て関係の連携する団体～愛保協、よかネット、建交労、学童保育指導員協会、県連協～、メッセージ披露が行われ、式典の部が終わりました。

続いて議事です。名古屋市連協は全国的にみても、指導員の待遇改善等に大きな前進を勝ち取って来ている地域連協です。設置率の低さ（地域運営委員会が設置や雇用などに全責任を負うため、簡単に増えない）、隠れ待機児童（学童保育に入れなくても、全児童対策事業＝トワイライトスクールに入れば良い、とする名古屋市独自の考え方による）、指導員不足、保



育料や運営に関わる保護者負担、などの課題を抱えてはいますが（基調提案より）、安定した運営を目指し、課題を解決すべく、民営のほとんどの学童保育所が加盟し、議員連盟を中心に議会を巻き込んで施策の改善と予算の積み上げを実現してきています。都市公園内での学童保育所設置の申請や、5月には「森と子どもの未来会議」が進めている「板倉構法」による木造施設が昭和区で建設されるなど、施設をめぐるさまざまな動きが起きています。

名古屋市の学童保育の更なる発展を目指して、13項目の組織方針が採択されて閉会しました。

再選された池田会長は「子どもたちのために、一生懸命取り組む姿勢を必ず子どもたちは見えています。義務感ではなく子どもの成長を願い、一緒に活動していきましょう。」と結びました。今年は基準問題や次の子ども・子育て支援事業5ヶ年計画の策定などがあります。名古屋の取り組みや、学童保育の中身をみんなで大切にする姿勢に学びながら、共に県への運動に取り組んでいきたいと思います。

津島市連協

5月12日(日)午後1時から津島市練成館にて、2019年度津島市連協総会が80名以上の保護者・指導員、多くの市議員などの来賓の参加で行われました。

津島市連協では『保育の安定』を軸に据えて、すべてのクラブに専任指導員の複数配置を安定させるための活動や、新任・専門の指導員研修や、研究集会への参加を進めてきています。また2018年度は、指定管理者が各クラブ父母会からNPO法人放課後のおうちに変更になり、一括運営体制が始まりました、このことにより保育料徴収や運営費管理、給与支払いなどの事務処理がNPOに移管され保護者の事務負担を大幅に軽減することができています。

2019年度よりひまわりクラブでは学童保育専用施設が建設されたことで、津島市内の学童保育所の全てが専用クラブ室での保育となりました。

『子どもの育つ環境はおとなが作る』という会長の決意のことばとそれを継承する保護者・指導員の皆さんの報告が印象的でした。

3年間市連協の発展に尽力された伊藤津島市連協会長は、今回退任されました。新しい会長は、わんぱくクラブの水野さんになりました。



NPO法人岡崎がくどうの会

第12回定期総会に参加して

日時：5月12日14:00～16:30

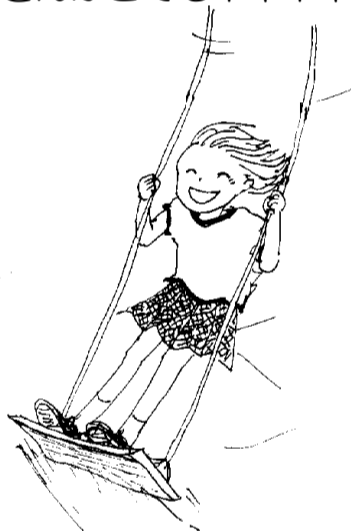
会場：岡崎市竜美丘会館

岡崎の総会には今年度で3回目の参加になりますが、毎年沢山の議員さんが参加されています。限られた時間の

中でも議員さん・担当課ともに全員のご挨拶の時間を設けていました。議員さんについてはある程度情報として学童保育の事を理解していないとお話できない面もあり、興味をもって関わっていただくきっかけにも「ご挨拶」はいいのかなと感じました。その為か、議員さんとの距離も近くに感じられ、日常的に情報交換を行われているのかなとも思いました。

また、事業報告の中では、「oneテーマ会」というものがあり興味を持ちました。NPO一括化に伴って、保護者会活動の希薄化を避けるためにと活動が始まった会で、昨年は計6回開催されています。運営形態が保護者会運営から、NPO法人化された時に学童保育と保護者との距離については、気になるところではありますが、保護者・指導員が顔を合わせて、毎回違うテーマに沿って、それぞれの思いや課題を出し合い、伝え合い、仲間同士の親睦や学童保育の理解の場として設けられているこの会に岡崎は重きをおいていることが伝わりました。今後、保護者会運営では回しきれないクラブが多くなり、法人化していくクラブも多くなってくると思われます。運営形態が変わったとしても、現場の声を大切にして、保護者が一緒になって考えていく、これは運営側として重要視されるべきところだと思います。保護者会運営クラブにおいても、「話し合う、伝え合う、学童保育を理解する」機会がどんどん削減され、保護者の負担の軽減として片づけられつつあるのでは？と思います。近隣地域の連協として、このような「保護者会の現場の声」について一度自分の地域で話題にしてみたいと思いました。

さらに、岡崎の一番の印象は、指導員さんがとてもイキイキとクラブ報告をされている印象がありました。緊張している指導員さんもありましたが、指導員さんが普段いろいろな事を思い、考えながら子どもたちに関わりをもち、保育についている様子が伝わりました。理事長やベテラン指導員のサポート、研修等学びの環境に配慮しているのも大きいのではないかと思います。岡崎で行われている会にも、今後参加して、活かしていける部分を取り入れていきたいなと感じました。



すべて市の直営となりますが、公・民共通の課題にもなっています。

昨年豊川で開催した学童保育ひろばに公営の指導員が参加したことで交流の幅がひろがり、総会にも公営の指導員が参加して報告をしていました。

指導員会からも「子どもの気持ちにどう応えてゆくのか」「子どもの成長を見逃さないように」と真摯な思いと、パート指導員も指導員会に参加できないか模索していることが語られました。

豊川市連協の大きなパワーを感じることができた総会でした。

豊橋市連協



6月9日、衆議院議員や市議会議員を来賓に迎えて第41回定期総会が行われました。

各クラブ紹介が全クラブで行われました。総会資料には、お子さんのイラストが載せられており、文字・数字がいっぱいの資料にもあったかさを感じました。あるクラブでは、中高学年の子が主体で会議をして、イベントを検討し、学童保育が高学年でも楽しいところであるということ指導員と話合いをしたそうです。高学年の保育を意識的にもって活動しているクラブが総会などで報告しているのはすごいと思いました。

指導員不足、離職、分割問題など大きな課題をもつクラブが多くありました。永年勤続者の表彰は10年目の指導員さんが1名でした。

豊橋では、公営・民間ともにデータとして、いろいろな数値的な資料が掲載されています。豊橋市のファミリーサポートセンターや、子どもたちの体力・運動能力調査、不登校児の実態、いじめ調査や、特別支援教育、食物アレルギーなど。単に学童保育のみというより、豊橋市の子どもを全体として捉える視点を持ちながら、新しい父母会の会長さんや指導員さんへの情報提供込みでの市連協総会であるように感じました。また、公営・民間の隔たりなく、豊橋連協として学童保育がより安心・安全で充実したものになっていけるようにと動いている市連協役員の活動をしていることを知りました。豊橋の活動について、近隣地域としても協力しながら、子どもの情報に地域で関心を寄せていくことがこれからは重要なのだと感じました。

来年度、いよいよ豊橋市を会場とした全国学童保育指導員学校(東海ブロック)が開催される方向で準備が進んでいます。

豊橋の保護者・指導員のみならずとも開催の成功に向けて取り組み、その取り組みを通して更に豊橋の学童保育がより良くなってほしいと願っています。



豊川市連協



5月10日(金)衆議院議員、県議会議員、市議会議員、子育て支援課、小学校校長と多くの来賓が揃う中、豊川市連協総会が行われました。昨年に比べずいぶん多く、それだけ5年間でつながりをしっかりつくってきたのだとわかります。校長から学童保育を助け支えてあげて欲しいと他の来賓の方々をお願いしていたのも印象的でした。来賓は最後まで残り、総会を見守りました。

学童保育の紹介、現状抱える問題もそれぞれ報告がありました。大規模化・待機児童解消は特に深刻です。多くの希望に応えるためさらなる分割をすすめる報告がありました。指導員の確保も深刻です。保護者会運営以外の学童保育は2020年度から

